



## 「 temple の中にいなさい IV」

### について

ネイラ・マルティネス・テヘダ

2020 年3月の「 temple の中にいなさい」のサツァングの一番最初から、そして5カ月余り後の遠い過去のような最後のサツァングまで、シッダ・ヨーガの世界中の親たちが、いかに彼らの子どもたちがこれらのサツァングでグルマリーとシッダ・ヨーガの修行に取り組むことができたかという素晴らしい話を、SYDA ファウンデーションに送ってきてくれました。同様に、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムのバガヴァーン・ニッテャーナンダ・ temple からの、これら歴史的なライブ動画配信のサツァングでセーヴァーをささげた十代の若者や青年たちからの体験談もありました——彼らはしばしば、世界中のさまざまな地域の自宅からライブ動画配信につながることで、セーヴァーをささげたのです。

若いシッダ・ヨーギたちによるこの貴重な学びは——まさしくシッダ・ヨーガの遺産の形成であり——これらのサツァングが実際にどれほど意義深いものであったかをあなたが体験するための方法として、「 temple の中にいなさい IV」の中で伝えられています。これらのサツァングは、子どもや若者にとって、ユニバーサルホールという神聖な環境にいて、サーダナーに取り組み、彼らの体験と理解を飛躍的に向上させる驚くべき機会でした。グルマリーは、子どもの時に学んだことは生涯を通して覚えているものだと言いました。

「 temple の中にいなさい」のサツァングで、幼い子どもたちは、グルマリーやバデ・バーバ——彼のムールティはすべてのサツァングの際立った特徴でした——に親しみを感じ、そしてまた、シッダ・ヨーガの教えを聞いていました。子どもたち、十代の若者たち、そして青年たち

は、どのように教典を朗唱し、ナーマサンキールタナをチャンティングし、彼らの技能や才能をささげ、アーラティーを行い、祈るかを学んでいました。

「 templeの中にいなさい IV」には、サツァングでの若いシッダ・ヨーギたちの演奏の幾つかや、若者たちがセーヴァーをささげることについて話しているサツァングからの短い映像も含まれています。



シッダ・ヨーギたちの若い世代と年配の世代との間で起こっている学びの循環は、いつも私を魅了します。私たちは皆、お互いから学びます。私自身の子どもたちとの体験で、私は彼らの観察の素直さの中にある深い知恵を発見しています。

「 templeの中にいなさい」のサツァングの後に何回も、私は息子たち——6歳のジーヴァンと3歳のレオナルド——に、「あなたの体験は何だったの？」と尋ねたものです。彼らは自分たちが観察したことについて話しましたが、大抵それは私が気づきもしなかったことでした。例えば、スイカに彫られた美しい形や驚くべきマンゴー、そして色鮮やかなフルーツジュースなど、すべてささげ物としてバデ・バーバのムールティの周りに置かれていた物。例えば、「ジョータ・セー・ジョータ・ジャガーオー」の間に揺らされていたさまざまなランプ——その上に3個、9個、あるいは11個と燃えていた灯芯。(私たちが歌っている間、息子たちは炎の数を数えていたのです)

私にとって息子たちの観察は、崇拝に、プージャーに関わる詳細に対する美しさと献身に焦点を向けることをもたらしました——そして私自身の人生の毎瞬毎瞬に、世界に対して私の最善と最も美しい大いなる自己をどのようにささげていきたいのかを思い出させました。

子どもたちの目を通して見ることはまた、私自身のサツァングの体験を刷新しました。私は自分が見逃した細部について聞く喜びを発見しました——そしてそれは、私のマインドを今この瞬間にとどめることを思い出させ、そうすることによって、私はより完全な人生を生きることができるのです。

私は、「 templeの中にいなさい」のサツァングに参加することによって息子たちがしている体験は、単なる思い出のコレクション以上のものを形作っていることに気づくようになりました。それは、私の子どもたちがシッダ・ヨーガの道の歩み方を学んでいるということです。それぞれのチャンティング、それぞれの体験談、それぞれの修行によって、彼らは彼らのサーダナーを作り上げているのです。

あるサツァングのアーラティーの間のことです。かつて私が息子のジーヴァンに話した、シュリー・ムクターナダ・アーシュラムで音楽のセーヴァーをささげ、アーラティーの前奏で大きな太鼓をたたいた時の体験談を、彼は思い出しました。私は彼に、音楽のセーヴァイトとして、大きな太鼓をたたいている間は「My... mind... is... Shiva. (私の…マインドは……シヴァ…である)」という言葉の繰り返しを教わったと話したのでした。それは太鼓の拍子を正確に、ぴったり合わせ続けるためです。ジーヴァンがこの時の「 templeの中にいなさい」のサツァングで初めてアーラティーを聞いた時、彼はその太鼓の拍子が「My... mind... is... Shiva. (私の…マインドは……シヴァ…である)」という言葉と完全に合っているのを聞いてワクワクしたのです。すぐに、彼はまるで彼自身がバデ・バーバのために templeで太鼓をたたいているかのように、その言葉を繰り返し、自分の胸の上でその拍子をたたき始めました。彼にとっては、彼が太鼓をたたいていたのです。

どうぞ、「 templeの中にいなさい IV」の物語や体験談を探究し、それによる純真な発見の喜びに出合ってください。子どもたちや若者たちの目を通したこれらの類いまれなサツァングを

体験することによって、あなたはあなた自身のサーダナーに対して、より大きな情熱を得ることができます——そして未来は良き手の中にあることを心強く思うことができます。



© 2020 SYDA Foundation®. 著作権所有。